

児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 2年 3月 12日

事業所名 キッズサポートクラブあしたば

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	4		・広いプレイルームでのびのびと過ごせている。 ・学習時間や自由時間を設けることで、1か所に集中しないようにしている。	
	2	職員の配置数は適切である	3	1	・送迎の乱れがあると、現場職員が出ることになる。 ・送迎の遅れが出た際に、最低限の基準配置とならないように、普段から基準配置に大幅な余裕を持たせている。	
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	1	3	・字が読めない児童でもわかりやすい絵カードをいたるところに配置している。 ・車いす用スロープなし・階段あり。	・アパートを使用しており、生活面で出てくる小さな段差や音響面(声)等に要改善の必要がある。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	4		・業務終了後、明日に備えてして清掃や整理整頓を行っている。	
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	3	1	・定期的を実施	・常勤職員間で日々行っているミーティングでの活動や支援の振り返り・改善提案を、今後は非常勤を含む全職員でも実行し、支援の向上に努めていきたい。
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	3	1	・保護者の意見を吸い上げ、改善努力をしている	・アンケートだけでは把握しきれない保護者のニーズを、各職員が保護者との直接の関わりの中で吸い上げられるよう努力していきたい。
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	2	2	・一昨年より、ホームページにて公表中。	
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		4		・第三者による評価を今後検討していきたい。
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	3	1	・面談や個別指導はあるが研修ではない ・事例検討ではないが、ケースによって	・外部開催の研修の場合、業務時間外の参加となってしまうこともあり、参加しやすい体制を整えていきたい。
適切な支援の提供	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	4		・アセスメントをとり、それぞれにあった計画を立てている。 ・面談等を行い、保護者からの要望も取り入れて作成している。	・個別支援計画の中間評価と終期評価の時期だけではなく、日頃の関わりの中からも児童や保護者のニーズや課題の分析ができるよう、努めていきたい。
	11	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	3	1	・必要に応じて使用している	
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	4			
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	4		・個々にあった支援を実施	
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	3	1	・内容を精査しながら取り組んでいる。	
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	4		・週で重ならないようにしている。 ・同じ活動においても、ねらいや目的を変えるなどの工夫をしている。	
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	4		・子どもの状況に応じて作成している。 ・職員間で情報を共有し、その児童に合わせた計画を立てている。 ・個別活動と集団活動の両方の活動を基本として、日々提供している。	

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標	
供	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	4		・毎朝確認している。 ・活動など担当を割り振り、現場に入っている。 ・出勤時間帯毎に、各自タイムテーブルを確認し、担当者とのミーティングでも情報の共有を図っている。	
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	4		・共有事項は毎日シートにて職員間で確認している。 ・職員の勤務時間が統一ではないため、当日と前日に分けて支援の振り返りや改善提案を行っている。	
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	4		・記録がたまらない様、その日、または次の日で記載している。 ・日々の児童記録を、主に個別支援計画の課題に対しての様子を記録することで、個別支援計画の評価としている。	
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	4		・定期的にモニタリングを実施し、職員間で共有しながら見直しを行っている。 ・モニタリングで共有した家庭や学校での様子を職員間で共有することで、より良い計画作成にも繋がっている。	
関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	4		・関わりの多い職員から情報を開き、主に現場責任者やサービス管理責任者が参加している。	
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	2	2	・必要時は連絡をとっている	
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	2	2	・対象児童なし	
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている		4	・対象児童なし	
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	3	1	・送迎時に園での様子、困り感などの聞き取りを定期的に行っている。 ・就学前後等の児童の環境が大きく変わる時期は、保護者・相談支援も交え、通常のモニタリング時よりも細かな情報共有を丁寧に行い、支援計画作成に当たっている。	
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	2	2	会議で共有している。	
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	2	2	・困難事例が上がった際の相談機関の一つとして利用している。	
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある		4		・定期的な交流の場としては設けられていないが、外出の際にはこちらから地域の方々や児童らへあいさつを交わし、関わる機会を大切にしていきたい。
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等積極的に参加している		4		・今後は積極的に参加し、地域の課題を共に考えていきたい。
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	4		・その日の様子を帰りの引き渡し時に毎回伝えている。	・児童の様子の変化が見られた際には、連絡帳や送迎時などに情報共有を行い、新たな課題も早急に共通理解が図れるように努めていきたい。
31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	2	2	・出来ている保護者とそうでない保護者がいる。 ・わからない	・日々の悩みを共有し、児童のニーズや課題に対して保護者と共に寄り添いながら成長を支えていきたい。	
	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	4		・わかりやすく丁寧に説明している。 ・受給者証の利用者負担額変更時には丁寧に説明し、行事等で利用者負担額が発生する場合には書面にて確認を取っている。	
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	4		・支援計画を作成し、保護者に説明した後、同意のサインをしっかりとっている	

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標	
保護者への説明責任等	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	4		・保護者の悩みの吐き出し口になれるよう心掛けている。	・送迎時や連絡帳だけでは共有できない場合もあり、適宜必要に応じて面談を設けたり、電話でも気軽に相談できるような体制を整えていきたい。
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		4	・父母会なし。	・未実施のため、今後企画検討していきたい。
	36	子どもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	4		・申し入れは後回しにせず、迅速に解決・対応できるよう努力している。 ・職員間で内容を共有し、神速に対応している。	
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	4		・便りを毎月必ず発行している。 ・フェイスブックでも日々の様子をお知らせしている。	
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	4		・事務所から持ち出さない。	
	39	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	4		・各家庭の状況などによって電話や、書面、口頭での説明など、伝える方法は適宜変えている。	
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	1	3	・事業所内の行事に招待するなどは行っていないが、近隣の清掃や散歩などで積極的に地域の方々との交流を心がけている。	
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	4		・通所するにあたっての「しおり」に記載。	・定期的な避難訓練と同様に、マニュアルの読み合わせも定期的に行い、緊急時に迅速な行動が取れるよう努めていきたい。
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	4		・定期的に避難訓練を実施	
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認している	4		・アセスメントシートに記載してもらっている為、把握している。	
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	2	2	・食物アレルギーのある児童なし	
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	4		・共有している。 ・日々の振り返りでも、過去のヒヤリハット事例を参考に改善提案に繋げている。”	
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	4		・小さな事でも気になったことは職員間で共有している。	
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	4			・現在、対象児童はいないが、必要性が出た際には保護者や医療機関等との相談の上で身体拘束を含む支援方法を検討していきたい。

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は事業所全体で行った自己評価です。